

環境整備支援

＜評価＞

- ・ 環境整備ボランティアの活動により、学校内外がきれいに整備されている。美しく整備された花壇や学級園の作物を子ども達が観察し、地域の協力に感謝する気持ちが育ってきている。
- ・ 学校の手が行き届かない場所の整備や休校中の水やり等も実現し定例化してきている。
- ・ 上粕小学校では、昨年度から6年生とボランティアが協力して校庭の遊具を塗装することが恒例となり、思い出作りにもなっている。次の学年の児童も楽しみにしている。

＜写真＞



＜相楽小学校環境整備＞



＜泉川中学校校環境整備＞



＜恭仁小学校環境整備＞



＜相楽台小学校環境整備＞



＜棚倉小学校環境整備＞



＜上粕小学校遊具の塗装＞

図書室支援

＜評価＞

- ・ 現在9校で図書室の支援活動を実施。学校司書不在日に教員の代わりにボランティアが入り、休み時間や放課後の開室と貸出支援を行うなど、児童・生徒がいつも図書室を利用できるようになっている。
- ・ コーディネーターがボランティアのスケジュール調整を行い、順調に活動されている。また、ボランティアは、貸出等業務で児童・生徒たちと関ることを楽しみに協力されている。
- ・ 活動を通してボランティア間の交流が生まれ、ボランティアが知り合いを誘うなど、活性化している学校もある。

＜写真＞



＜州見台小学校図書室支援＞



＜木津南中学校図書室支援＞



＜恭仁小学校図書支援＞

登校安全指導

<評価>

- ・ ボランティアは朝の忙しい時間帯、寒い日も暑い日も、地域の児童のために活動されている。
- ・ 交通量の多い交差点での登校時の見守りで、児童が安心して登校することができている。

<写真>



<州見台小学校登校安全指導>



<棚倉小学校登校安全指導>



<木津第二中学校下校安全指導>

学習支援・体験活動・部活動指導

<評価>

- ・ 木津第二中学校では、家庭科の授業補助がコロナ禍以降、数年ぶりに要請されたが、コーディネーターの呼びかけとボランティアの協力により、多くの日程の支援が実現した。
- ・ 加茂小学校では、学級園での植物の生育の観察や農業体験を実施。ボランティアからの提案など積極的な参画により、学級園を広げて腐葉土づくりを行うなど計画的に整備されている。
- ・ 梅美台小の手芸クラブの補助では、子ども達の作品づくりにアドバイスしたり作品発表に立ち会ったりと、ボランティアは子ども達とのふれあいを楽しみながら参加されている。
- ・ 今年度から上粕小学校で特別支援クラスの授業補助を開始。棚倉小学校に続き2校目となる。

<写真>



<木津第二中学校家庭科授業>



<加茂小学校野菜を育てる授業>



<加茂小学校調理実習>



<木津小学校昔遊びの授業>



<梅美台小学校手芸クラブ>

その他

- ・ 州見台地域では新たに2名のコーディネーターを選出。州見台小学校と木津南中学校の支援において、初年度にも関わらず連携しながら積極的に取組まれ、全ての要請を実現された。
- ・ 各本部の学校数、地域コーディネーターの配置人数、各校からの要請数等は、地域の実情により違うが、全体の要請数は事業の浸透とともに年々増加しており、地域コーディネーターの役割もさらに重要となっている。
- ・ 地域コーディネーターは、資質向上を目的とした京都府主催の研修会へ経験年数に関係なく積極的に参加し、地域と学校の連携・協働に対する意識の高揚や維持につながっている。また市では、実際の活動に役立てるための情報交換を目的とした地域コーディネーター交流会の開催を計画している。
- ・ 登録の際に希望された支援活動が学校の要請項目にない等の理由で休眠状態のボランティアに対し、登録更新確認と現在必要な支援項目を案内することで年度当初3割だった休眠状態ボランティアが1割ほどに減少。案内により参加されるようになった方もある。



<木津川台小学校昔遊び学習>



<州見台小学校収穫体験授業補助>



<南加茂台小学校収穫体験>

まとめ

- ・ 地域学校協働本部事業は、地域と学校が連携・協働し地域全体で子ども達の成長を見守る体制づくりを目指して2012年度に上げられ、これまで、学校・地域の関係者各位の理解・協力と、多くのボランティアの支援協力により、各地域で少しずつ認知されてきました。
- ・ 令和5年度は、ほぼ全ての活動がコロナ禍前に戻って再開され、学校関係者の異動等があった中でも、以前の取り組み方法を知るコーディネーターやボランティアの協力により、支援が速やかに実現するなど、体制づくりによる成果を発揮できた年でもありました。
- ・ 地域コーディネーターは、自身の経験を活かして活動が円滑に進むよう、学校とボランティアの調整役だけでなく、自身が中心となって支援活動を実施されています。また、ボランティアが活動に気持ちよく参加できるように、ボランティア間や学校との関係作りを常に意識しながら、連絡やお礼の言葉がけなど、細やかに配慮されており、重要な役割を担ってくださっています。
- ・ 令和6年度も引き続き地域コーディネーターを中心として、地域全体に協力を呼びかけ、学校支援活動を充実させていきます。さらに今後は市内公立全校へのコミュニティ・スクールの導入が推進されており、地域の理解・協力が一層求められています。

※上記で写真が掲載されていない学校でも、支援活動を実施しています。